暮らしを彩ったガラス瓶

出土地：普天間飛行場内集落、中城御殿跡

今回紹介するガラス瓶は、戦前に現在の普天間飛行場内にあった集落や、龍潭のそばにある中城御殿跡から出土したガラス瓶です。昔は薬・酒、ジュースや醤油に至るまで、様々なものの容器としてガラス瓶が使われていました。

目盛りのついたコバルト色や透明の小瓶は目薬の瓶です。昔の目薬の差し方は容器からスポイトを使って点眼する方法と、容器にゴム製のスポイトが付き、容器から直接点眼する方法がありました。今ではほとんどプラスチックの容器に代わっています。

銃のような形をした透明の瓶は金平糖が入っていた瓶で、駄菓子屋で売られ食べ終わった後は玩具として遊ぶことができました。また、今でも食卓で使われている味の素の容器は、昔は小さい台形の瓶でした。

その他にもガラス瓶には中身や用途により様々な色、形、大きさがあります。これらはほとんどが沖縄県外で制作されたもので、船で運ばれて県内各地に流通し、使われた後に捨てられました。

現在、沖縄で生産されたガラス製品の多くが、「琉球ガラス」として沖縄を代表する工芸品となりましたが、その歴史は戦後、コーラの瓶などのガラスの瓶を溶かして再利用したところから始まりました。かつてガラス製品が担った役割はペットボトルなどの様々なプラスチック製品に代わっていきましたが、皆さんの家にはどんなガラス製品がありますか？

廣岡　凌